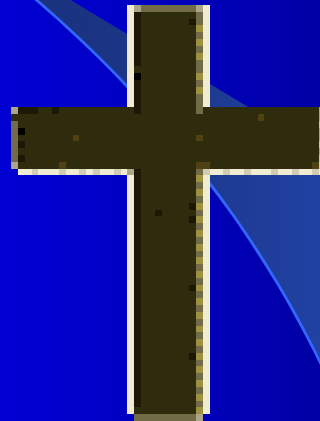


第一コリントの信徒への手紙クラス 「十字架の言葉は神の力です」

第一コリント1:18



東京キリストの教会

クラス4

イストマス祭典 (Isthmian Games)

コリント近辺で行われた古代オリンピック

9章： 使徒の生き方

10章： イスラエルの歴史を振り返り

11章： 礼拝の姿勢

12章： ひとつの体、多くの部分

2年に一度現代のオリンピックと同じ競技がコリント近辺の地域で行われた。都市オリンピアで行われた競技が古代オリンピックである。コリント近辺で行われた競技はオリンピックと同じスケールであった。

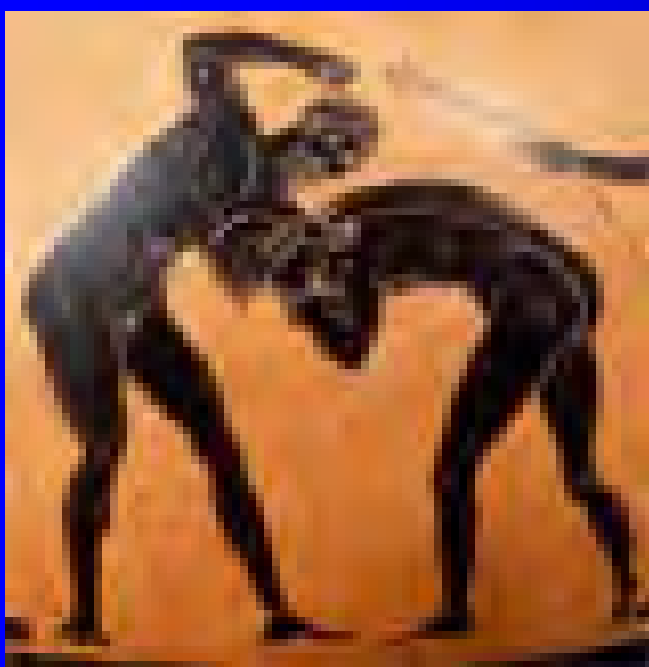
ローマ帝国に征服されたギリ
シャ人はこういう競技でもとも
ともっている闘志を燃やしてい
たと考えられる。

。ギリシャの人はスポーツに大
いに関心があった。スポーツ選
手も一種の英雄だった。

第一コリント 9 : 24 - 27

- あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

ボクシング



現代のボクシングと違ってルールが少なかった。ラウンドは無く、片方が失神するか降参するまで戦った。相手がダウンしても殴り続けてもよかった。体重クラスなど無く、戦う相手は適当に選ばれた。

走る競技



走る競技

4つの種類の競争があった。

* 1スタディオン (192m)

スタジアムの長さの距離

* 2スタディオン (384m)

* 長距離、7～24スタディオン
(1,344m～4,608m)

* 防具着き競争(384m～768m)

兵士達がスタミナとスピードを
つけるために有効な競技だった

23～27kgの重さの防具を着ながら
走った



五種競技 (Pentathlon)



円盤投げ



槍投げ

五種競技 (Pentathlon)



走り幅跳び
レスリング
走る競争

パンクラス (Pankration)

ボクシングとレスリングを合わせた過酷な競技。
噛むことや爪をつかう以外は基本的にすべて
有り。現在行われているバレテュードのよう。

乗馬・馬車競走

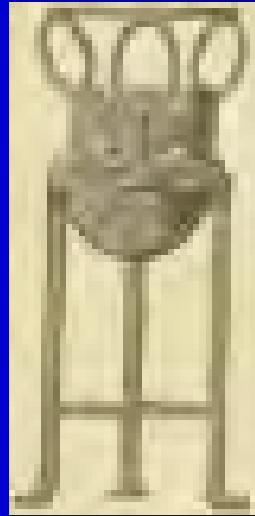


トレーニングにつかわれた石



ビボンが片手で持ち上げたと書いてある200kg
の石

勝者への賞



このようなものが勝者へのトロフィーとして
つかわれた

まとめ

- コリントの人達は色々な競技に対して真剣に訓練していた。
- この訓練は時には過酷なものだった。
- 得た賞は素晴らしいものだった。

第一コリントの信徒への手紙クラス
「十字架の言葉は神の力です」
第一コリント 1 : 18

クラス 4

イストモス祭典 (Isthmian Games) コリント近辺で行われた古代オリンピック

- 9 章： 使徒の生き方
- 10 章： イスラエルの歴史を振り返り
- 11 章： 礼拝の姿勢
- 12 章： ひとつの体、多くの部分

第一コリント 9 : 24 - 27

あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。

競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。

だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。

むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

2年に一度現代のオリンピックと同じ競技がコリント近辺の地域で行われた。都市オリンピアで行われた競技が古代オリンピックである。コリント近辺で行われた競技はオリンピックと同じスケールであった。

ローマ帝国に征服されたギリシャ人はこういう競技でもともと持っている闘志を燃やしていたと考えられる。

ギリシャの人はスポーツに大いに関心があった。スポーツ選手も一種の英雄だった。

まとめ

コリントの人達は色々な競技に対して真剣に訓練していた。

この訓練は時には過酷なものだった。

得た賞は素晴らしいものだった。

- 9 章： 使徒の生き方
- 1 - 18 節 コリントの教会は十分にパウロを尊敬せず、報酬を与えなかった
- 19 節 みんなの僕 (デュロス : 奴隸)

21－22節 全ての人のために全ての人のようになる

人の救いのために何でもする態度は十字架に動機付けられた心

24－27節 競技を走る者として

救いの失格者になるぬよう、しっかりと節制し、毎日のお祈り、聖書の学びを大切にしていくこと

10章： イスラエルの歴史を振り返り

5節 神様は先祖のことを喜んでいなかった。何故？

6節 過去に起きたことは私達の手本のため

7節 偶像礼拝しないこと

8節 姦淫を犯さないこと

9節 キリストを試さないこと

10節 感謝せず不平不満言わない

11節 我々にとって悪い模範

12節 プライドに陥らないよう

歴史からしっかり学び、同じ過ちを繰り返さないよう注意すること

13節 必ず逃れる道がある－どんな誘惑でもこれは希望

11章： 礼拝の姿勢

3節： 頭であるイエスに従順であること

17－18節 礼拝の姿勢ががたがた

問題としてキリストを頭とする態度が足りなかった。女性も男性に対して従順な態度がなかった。礼拝に来るときの心の態度を吟味することは非常に大切

12章： ひとつの体、多くの部分

4－7節 色々な賜物、奉仕、行動一同じ霊

18節 神様が身体の部分のアレンジしている

22－25節 身体は一つ、弱い部分は特別にケアする

一人一人は神様がアレンジした大切な体の部分。

世の中の基準で自分の価値をはからない。十字架の基準ではかること。

一人一人は体を必要としている。交わりや深い関係を大切にしていく。

同時に体は一人一人を必要としている。